

科目名	感染と予防Ⅱ (病原体と治療・予防)					DP4 DP6	看護高等課程
学年	1年	分野	専門基礎 疾病の成り立ち	時間数	22時間	担当 教員	外部講師
科目 概要	近年、感染症は大きく変貌してきている。感染経路の多様化や抗生物質耐性菌の問題もさらに深刻さを増し、感染防止を目的とした看護業務の必要性が求められている。ここでは、感染と発病の基礎知識を踏まえて病原微生物による感染症の治療について学ぶ。						
到達 目標	1. 主な病原微生物と治療について理解できる。						
回数	単元項目	授業内容				形態	担当教員
1~3	感染症の予防	感染症法、感染症の予防（感染の予防・院内感染防止対策・標準予防策と感染経路別予防策）、滅菌と消毒（滅菌と消毒・滅菌と消毒の実際）、医療器具・廃棄物の取り扱い、バイオハザードとその予防				講義	外部講師
	病原微生物と化学療法	化学療法の種類と作用、菌交代現象、薬剤耐性菌				講義	外部講師
5~9	主な病原細菌疾患の予防と治療	主な病原細菌（グラム陽性球菌、グラム陰性球菌・球桿菌、グラム陰性好気性桿菌、グラム陰性通性嫌気性桿菌、グラム陽性桿菌、抗酸菌と放線菌類、嫌気性菌、らせん菌、スピロヘーター、マイコプラズマ科、リケッチア科、クラミジア科）				講義	外部講師
10~12	主なウイルス性疾患の予防と治療	主な病原ウイルス（DNAウイルス、RNAウイルス、ウイルスの臨床的分類）				講義	外部講師
	真菌・原虫類疾患の予防と治療	真菌（真菌の種類と特徴、真菌感染症）、原虫類（赤痢アメーバ、臍トリコモナス、マラリア原虫、トキソプラズマ、クリプトスポリジウム、ランブル鞭毛虫）				講義	外部講師
	試験	ゆとり時間				試験	
評価 基準	100点満点とし、6割以上を合格とする。また、授業時間数の3分の2以上の出席が必要となる。						
評価 方法	出席状況と講義への参加態度、筆記試験などで総合的に評価する。						
教科書	新看護学3 疾病のなりたち 医学書院 必要時、資料等は配布する。						
履修上の 注意点							